

平成27年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
	（1）郵政博物館活動	1
	（2）資料センター活動	2
3	前島密賞の贈呈事業	3
4	会報「通信文化」の発行事業	3
5	文化活動の運営事業	4
	（1）文化講演会の開催等	4
	（2）青少年ペンフレンドクラブ(P F C)への活動支援	6
	（3）社会貢献活動の実施	7
	（4）ホームページの見直し	7
6	土地・建物質貸事業	8
7	会員に対する諸施策	8
	（1）記念品等の贈呈	8
	（2）「郵政博物館」入館料の割引	8
	（3）叙勲祝賀会(会費制)の開催	8
	（4）新年賀詞交歓会(会費制)の開催	8
8	中西重思・遺児育英基金の管理・運営	8
9	団体傷害保険等の取扱	8
10	会員増加対策	9
11	役員会議等開催状況	10
	（1）理事会	10

(2) 評議員会	10
12 業務等の見直し	10
○ 「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	11

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館（前島記念館等を含む。）の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に郵政博物館資料センターを設置している。

2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、平成26年3月1日に東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンした。

「展示」、「収集・保存、調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

(1) 郵政博物館活動

常設展示場では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示を行っている。

企画展示場では、重要文化財をはじめとする貴重なコレクションの展示を行ったほか、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした、特別展（企画展）を5回実施した。また、多目的スペースにおいて各種のイベントを開催した。

郵政博物館の平成27年度の入館者は59,872名、開館日数は334日で、一日平均179名であった。

ア 特別展(企画展)開催状況

No	特別展名	期間	開催日数	入館者数(人)
1	企画展「前島密 生涯とその業績 展-前島密生誕180年&郵便貯金140年-」	平成27年4月11日~6月21日	68	10,895
2	夏休みイベント「ねこのダヤンとエルタシル郵便局」展	平成27年7月4日~8月31日	59	17,834
3	特別展「ボンジュール! フランスの絵本たち」	平成27年9月12日~11月8日	58	8,627
4	企画展「年賀状展」-年賀郵便の歴史やまつわるあれこれ-	平成27年11月21日~平成28年1月11日	49	7,833
5	企画展「-日本の美-奥の細道切手原画展」	平成28年1月23日~3月27日	61	9,928

イ イベント開催状況

No	主催者	イベント名	期間	開催日数	入館者数(人)
1	郵政博物館	新収蔵資料展	5月16日(土) ～6月21日(日)	35	5,184
2	郵政博物館 日本郵趣連合等	全日本切手展2015 (第1会場:すみだ産業会館、 第2会場:郵政博物館)	7月17日(金) ～7月19日(日)	3	1,724
3	郵政博物館	新年は郵政博物館で「運」だ めし福引	1月2日(土) ～1月3日(日)	2	501
4	心齋橋大丸原図展 実行委員会 (協力:郵政博物館)	壮麗と質実～心齋橋大丸と 逓信省のヴォーリズ建築原 図展	1月23日(土) ～2月2日(火)	11	1,845
5	郵政博物館	バレンタインは女の子だけ じゃない!オトメとオトメ ンのワークショップ	2月6日(土) ～2月14日(日)	9	1,571
6	郵政博物館	春休みイベント みんなで体験!ミステリー に挑戦	3月29日(火) ～4月5日(火)	8	1,161

郵政博物館以外では、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)において、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。

(2) 資料センター活動

ア 資料の収集・保存、調査研究事業活動

資料の収集・保存は、あらゆる博物館活動の基盤となる重要な活動であり、昨今のネット情報社会に対応するため、収蔵資料のデジタル化を推進し、ネット上で公開した。

調査研究については、不特定多数の方から関心を持たれ、評価されることを目指した通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。

(ア) 郵政歴史文化研究会の開催(第1～第5分科会および特別研究等)

(イ) 研究紀要の発行(第7号)

(ウ) その他調査研究・修復・保存整理の実施等

イ 文化・教育普及、生涯学習支援

日本郵政グループや報道関係者、他の博物館・美術館、研究者等に対して積極的に収蔵資料の撮影や閲覧、取材等に対応して照会回答を行ったほか、通信文化資料の有効活用のために、資料貸出(76件)や巡回展を積極的に行った。

No.	項目	件数
A	貸出	76件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	90件
C	特別閲覧	59件

D	取材・照会回答	213 件
E	原稿提供・監修	45 件

また、教育・普及活動の一端として、大学在学中の博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行った。平成27年度の実習生の受入数は8名であった。

3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした通信事業の創始者である前島密の功績を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。以来、同分野において顕著な功績のあった方々998名(団体を含む。)に贈呈してその功績を称え顕彰するとともに、文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

平成27年度の前島密賞(第61回)については、例年同様に各推薦機関(総務省、日本郵政、NTT、NHK、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、テレコムサービス協会、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟)から推薦を受けることとして実施した。

平成27年7月24日に募集要綱をHP上で公表するとともに、9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会の議を経て22名(うち共同研究11名、1団体を含む。)の受賞者を決定し、本年3月18日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。

なお、受賞者22名の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、協会のHPでも公表した。

4 会報「通信文化」の発行事業

記事内容については、読者の約6割を占める郵政グループ現役社員に一層役立つものとするため、4月号から女性社員の活躍の実情を紹介するコーナー「女性活躍の最先端」を設け、毎月、郵便局等での女性の仕事での活躍、家庭や子育てとの両立の問題などをレポートした。

また、平成27年度での日本郵政の株式上場を念頭に、郵政グループの経営関連の記事を増強したほか、マネジメントに関する記事も多く掲載した。

健康問題については、広く読者全体に最も関心の高いところから、4月から1年間、東京通信病院の精神科部長による精神疾患の記事を掲載し、読者からは好評を得た。このシリーズについては、本年3月に終了したが、この12回分を一冊にまとめて編集し、関心の高い読者や関係機関に配布している。

また、前島密賞の意義や実績を広くPRするため、同賞受賞の技術開発等について、受賞者によりわかりやすく解説した記事を4月号～9月号まで6回にわたって掲載した。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介し、いずれも読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載・同梱する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。その結果、広告料収入は昨年度と比較して154%となった。

年間12回 720,000部発行 (月平均60,000部)

発行月	特集記事	執筆者又は話し手
27年 4月	座談会と寄稿 前島密生誕180周年記念特集	ゆうちょ銀行 牧野 洋子ほか2名 前島密を称える会 吉崎 庄司ほか3名
5月	第60回前島密賞受賞記念講演 日本の「こうのとりのとり」	宇宙航空研究開発機構 植松 洋彦
6月	インタビュー 女性トップインタビュー	日本郵便株式会社 浅見加奈子ほか2名
7月	岡野裕基金記念トークセッション 前島密 青春の旅と街道	さいたま県立歴史と民俗の博物館 副館長 杉山 正司
8月	岡野裕基金記念講演会 前島密に学ぶ	歴史家・作家 加来 耕三
9月	岡野裕基金記念講演会 手紙の力	株式会社銀座・トマト会長 近藤 昌平
10月	インタビュー 女性社員フロントラインフォーラム	日本郵便株式会社九州支社
11月	岡野裕基金記念講演会 雑談接客で売り上げ五倍!	伝説のカリスマ販売員 茂木 久美子
12月	インタビュー JP労組委員長に聞く 岡野裕基金記念講演会 マラソンを通じて	日本郵政グループ労働組合中央執行委員長 小俣 利通 旭化成陸上部顧問・元監督 宗 茂
28年 1月	岡野裕基金記念講演会 日本が世界地図から消滅しないための戦略(前編)	東京大学名誉教授 月尾 嘉男
2月	岡野裕基金記念講演会 日本が世界地図から消滅しないための戦略(後編)	東京大学名誉教授 月尾 嘉男
3月	岡野裕基金記念講演会 女性がいきいきと活躍するために 職場に必要なこと	組織専門コンサルタント 上村 久子

5 文化活動の運営事業

(1) 文化講演会の開催等

本協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、次のとおり文化活動を行った。

ア 文化講演会等

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加数
北海道	27. 9. 15	文化講演会「企業の広報活動について」	北海道新聞NIE推進センター委員 渡辺 多美江氏	札幌市	120
関東	28. 1. 21	文化講演会「現代のマネジメントに求められるもの」	経営コンサルタント 柴田 昌治氏	さいたま市	256
	28. 2. 6	年金・生活設計セミナー	税理士・社会保険労務士 佐藤 正明氏	さいたま市	36
南関東	27. 10. 29	文化講演会 「日本が世界地図から消滅しないための戦略」	東京大学名誉教授 月尾 嘉男氏	川崎市	96
	28. 2. 27	年金・生活設計セミナー	税理士・社会保険労務士 佐藤 正明氏	川崎市	16
東京	27. 6. 13	文化講演会 「前島密に学ぶ」	歴史家・作家 加来 耕三氏	新宿区	200
	27. 7. 30	文化講演会 「手紙の力」	(株)銀座・トマト会長 近藤 昌平氏	新宿区	138
	27. 9. 18	CSセミナー 「雑談接客で売上5倍！」	元山形新幹線車内販売員 茂木 久美子氏	港区	220
	27. 10. 24	女性活躍セミナー 「女性がいきいきと活躍するために職場に必要なこと」	組織専門コンサルタント 上村 久子氏	新宿区	200
北陸	27. 11. 13	スキルアップセミナー	西日本旅客鉄道(株) 金沢駅長 辻 昭夫氏	金沢市	71
東海	27. 9. 26	文化講演会 「株式上場で広がる郵政事業の未来を展望」	(一)通信研究会 業務執行理事 島崎 忠宏氏	名古屋市	300
近畿	28. 2. 20	年金セミナー 「知って得する年金セミナー」	税理士・社会保険労務士 佐藤 正明氏	大阪市	206
九州	27. 10. 25	文化講演会 「マラソンを通じて」	旭化成陸上部 顧問 宗 茂氏	宮崎市	240

イ 手紙教室等

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加数
東北	27. 10. 15	被災地支援 絵手紙教室	PFCアドバイザー 佐藤 ひとみ氏	南相馬市	11
	27. 10. 22	被災地支援 絵手紙教室	PFCアドバイザー 笹川 由美子氏	岩手県 大槌町	15
	27. 12. 2	被災地支援 絵手紙教室	PFCアドバイザー 南生 清子氏	石巻市	18

信越	27. 8. 3 ~8. 7	手紙教室	絵手紙協会公認講師等	長野市	240
東海	27. 4. 27	手紙教室	PFCアドバイザー 西田 信子氏	春日井市	100
	27. 12. 23	年賀状教室	PFCアドバイザーや開 催局の総務部長等	管内の郵便 局(13局)	1023
近畿	27. 6. 15	絵手紙教室	NPO 法人ふれあい広場 荻野 美佐子氏	大阪市	25
	27. 7. 4	クラフトはがき	平野加美南郵便局 田中局長	大阪市	60
	27. 8. 18	絵手紙教室	近畿支社 スーパーバ ザー 山崎 順子氏	大阪市	20
	27. 10. 8	絵手紙教室	前川 博子氏	奈良市	20
	28. 3. 20	実践手紙講座	切手デザイナー 貝淵 純子氏	大阪市	290
中国	27. 8. 23	手作りハガキ作成体験	松江中央郵便局社員	松江市	80
	27. 11. 4 ~12. 4	手紙教室	広島東第二部会 各郵便局長	広島県 府中町	80
四国	27. 12. 17	こども絵手紙教室	郵便局OB 絵手紙教室 講師 柏原 啓一氏	宿毛市	32
沖縄	27. 11. 21	手紙教室	PFCアドバイザー 徳村 梨香氏	那覇市	32

(2) 青少年ペンフレンドクラブ(PFC)への活動支援

ア 地域交流会活動支援

手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便(株)各支社において開催された「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行った。

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加数
北海道	28. 2. 25	絵手紙教室	日本絵手紙協会 公認講師 箕浦 尚美氏	札幌市	11
	28. 3. 19	絵手紙教室	日本絵手紙協会 公認講師 箕浦 尚美氏	札幌市	100
南関東	28. 2. 25	PFCアドバイザー交流会		横浜市	27
中国	28. 2. 7	PFC会員交流会	消しゴムはんこ作家 「はるひな」 美文字講師「徳森 真弓」	広島市	31

	28. 2. 21	PFC女子会	手紙家「くま」	広島市	8
九州	28. 3. 13	PFC会員交流会	安河内 由美子氏 橋口 智保子氏	熊本市	25

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク（会員会報誌 毎月1回発行）」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。

読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により約20名へ賞品（レターセット等）と会報「通信文化」を贈呈した。

（3）社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を次のとおり実施した。

地方本部	開催日	開催地域	参加者(人)
北海道	27. 7. 23	札幌市	8
	27. 8. 10	札幌市	7
東北	27. 10. 31	仙台市	26
関東	27. 4. 25	柏市	27
	27. 10. 24	東松山市・吉見町	29
東京	27. 5. 23	杉並区	77
	27. 10. 3	杉並区	79
	28. 2. 27	杉並区	77
九州	27. 7. 26	熊本市	35
	27. 8. 2	熊本市	30
	27. 10. 5~9	熊本市	150
	27. 11. 3~8	福岡市	800
沖縄	27. 12. 11	那覇市	15

（4）ホームページの見直し

平成14年度に開設したホームページについては、各種情報の迅速な提供と、各種催事等多目的な活用を提供することとし、情報の公開、地方本部も含めた協会主催イベントのタイムリーな掲載、新規会員加入申し込み案内など、会員や通信文化に関心を有する皆さまの情報の拠点としている。

○ 主なコンテンツ

- ・「財団の概要」→公益財団法人としての情報公開
- ・「事業案内」→公益財団法人としての事業紹介
- ・「郵政博物館」→郵政博物館の展示資料やイベント情報等を紹介
- ・「前島密賞」→前島密賞の「募集要綱」や「受賞者の功績」を紹介
- ・「刊行物」→通信文化協会の会報誌「通信文化」の目次を掲載して掲載事項を紹介
- ・「お知らせ」→全国の協会主催イベント及び博物館イベント等をタイムリーにお知らせ
- ・「協会だより」→お知らせで案内した各種イベントの開催結果を案内

6 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き日本郵便株式会社等へ賃貸しているほか、湯島の建物について引き続き賃貸を含めて活用した。

7 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

(1) 記念品等の贈呈

ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員891人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。

イ 米寿を迎えた個人会員617人に「米寿記念品」を贈呈した。

ウ 協会手帳を配付した（希望者のみ）。

(2) 「郵政博物館」入館料の割引

会員サービスの一環として、本人及び同伴の家族が入館する場合、入館料50円の割引を実施した。（割引後の入館料 大人250円、小人100円）

(3) 叙勲祝賀会(会費制)の開催

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、春と秋に祝賀会(米寿祝賀会を併合開催)を開催した。また、北海道、東北、中国、九州及び沖縄地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

(4) 新年賀詞交歓会(会費制)の開催

東京都内と関東・南関東地域在住の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で1月8日、東海大学校友会館(霞が関ビル35階)において開催した。また、北海道、東北、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

8 中西重思・遺児育英基金の管理・運営

長年、郵政審議会委員などを務め郵政事業に貢献された中西重思氏の遺言により、在職中に死亡した郵政関係社員の遺児(満18歳未満の子)育英のために、平成12年10月に中西育英基金(4億5百万円)が設立された。当会がその管理、運営を委ねられ、以後、遺児に対して1人40万円を給付し養育の支えとなっている。

平成27年度の給付状況は次のとおり。

○ 件数(対象となった遺児数) 30件 54名(前年度 30件 50名)

○ 給付金 2,160万円(前年度 2,000万円)

平成28年3月末現在の給付額の累計は3億6,340万円(659件・対象遺児1,106人(旧給付金額支給395人含む。))となった。

9 団体傷害保険等の取扱

通信文化協会会員及び郵政グループ職員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、

次のとおりである。

【平成27年度における契約状況】

区 別	口・件数	保 険 料
団 体 保 険	82 千口	529 百万円
団 体 扱 保 険	5 千件	250 百万円

10 会員増加対策

平成27年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、新規加入目標を3,510人、純増目標を300人として設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に合わせた参与の積極的な勧奨活動体制の強化とともに、特に今年度は、会員サービスとしての会報の掲載内容充実を図り、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入目標の推進状況は、3,606人(対目標102.7%)となり、対前年度末の個人会員数に対し、1,321人と大幅な純増を確保することができた。

また、法人会員の加入勧奨にも積極的に取り組み、今年度は79団体97口の拡大を図ることができた。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	平成27年度末	平成26年度末	増・減
個人会員(人)	59,852	58,531	1,321人増
法人会員(口)	880	783	97口増

(個人会員地方本部等内訳)

区 別	平成27年度末
北海道	5,162
東 北	6,379
関 東	5,355
東 京	4,645
南関東	1,801
信 越	4,201
北 陸	2,181
東 海	6,644
近 畿	8,326
中 国	4,633
四 国	2,878
九 州	6,594
沖 縄	431
本 部	622
合 計	59,852

(注) 日本郵政グループ本社社員等を関東・東京地方本部から「本部」に移行。

(参考)

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附(支援)をお願いしており、27年度は2,348人の会員から総額3,288,940円(払込手数料控除後)の寄附収入があった。

1.1 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第12回及び第13回理事会において行った。

(1) 理事会

○ 第12回理事会（平成27年6月3日）

- ＜議案＞
- 1 平成26年度事業報告
 - 2 平成26年度決算報告
 - 3 特別寄附金の受入れ
 - 4 定時評議員会の開催

○ 第13回 理事会（平成28年1月25日）

- ＜議案＞ 第61回前島密賞の授賞者決定

○ 第14回 理事会（平成28年2月19日）

- ＜議案＞
- 1 平成28年度事業計画
 - 2 平成28年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
 - 3 第8回評議員会の開催

(2) 評議員会

○ 第7回 評議員会（平成27年6月18日）

- ＜議案＞
- 1 議長の選出
 - 2 議事録署名人の選出
 - 3 平成26年度決算報告
 - 4 監事の選任

○ 第8回 評議員会（平成28年3月17日）

- ＜議案＞
- 1 議長の選出
 - 2 議事録署名人の選出
 - 3 平成28年度事業計画
 - 4 平成28年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み

1.2 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、従来の財務及び会員担当部長二人体制から一人配置に集約したほか、会報発行責任者である編集長を部長が兼ねるとともに副編集長の役職を設けるなどの見直しを行ったほか、主として郵政博物館の運営を強化するための横断的に対応できる体制を設けた。また、個人番号(通称：マイナンバー)の取扱いに関する基本方針を制定・公表し、責任者を配置するなどの安全管理措置を講じた。

なお、郵政博物館は原則無休の不定期休であるため、休日における管理体制に万全を期すなど社会的要請に応えることとしている。

平成27年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年6月

公益財団法人 通信文化協会